

令和4年度

病院事業 企画経営課の方針書

組織名	病院事業 企画経営課
所属長名	課長 佐々木寛己

1. 組織の使命(ありたい姿)

地域の人々に信頼され安心を与える市立病院として両院が協力し、良質な医療の提供に努める。

2. 組織の抱える課題(現状)

- ・公立病院経営強化ガイドライン及び地域医療構想への対応。
- ・医薬品や医療用消耗品等の共同購入を検討してきたが、診療科や病院の機能(急性・療養等の医療機能)の違いから、進展していない。
- ・スタッフの人事交流について医療機能の違いから患者層や給与・勤務形態(看護師は横手が3交代、大森が2交代など)等が違うことから、進展していない。両院共同での採用試験も案としてはあるが進展していない。

3. 今年度の『スローガン』

互いの課題を克服し、良質な医療の提供に努めよう

4. 今年度の方針

- ・新型コロナウイルス感染症への対応を継続しながら、国の「公立病院経営強化ガイドライン」や地域医療構想調整会議の進展に留意し、両院がそれぞれの特徴を生かしながら、地域における持続可能な医療を提供していくための情報収集と検討を行う。
- ・健全な病院経営に向け、引き続き低コスト運営に努めるとともに人事交流についても検討していく。

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	両院における中長期計画(新公立病院経営強化プラン)の策定
	取組内容	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い延期されていた、国による「公立病院経営強化ガイドライン」が示されることになり、それに基づく「中長期計画(経営強化プラン)」の策定について、民間病院を含む地域医療構想の情報収集に努め、両院の特徴を生かした今後5年間のプランの策定に取り組む。
(2)	実現したい成果	健全経営及び人事交流等の検討
	取組内容	・企業経営アドバイザーによる業務改善診断を行い健全経営を目指す。 ・共同購入で低コスト化が図れる資材の検討を継続し、可能なものから共同購入を目指す。 ・企画経営会議の開催と取組みのための検討会等を開催する。 ・奨学金の貸与学生の募集や研修会を合同で開催する。 ・人事交流に向けて各職種間の交流や、両院間での短期職場派遣等の検討を行う。
(3)	実現したい成果	
	取組内容	

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- ・公立病院経営強化プラン策定に向けて、総務省の経営財務強化マネジメント事業により派遣される経営アドバイザーとして八幡平市立病院統括院長を講師に両院合同の勉強会を実施した。2回目を10月26日に実施予定である。
- ・A重油の共同購入を行っている。
- ・民間経営コンサルタントから病院運営に客観的な評価をしてもらっている。
- ・病院事業企画経営課会議、院長会議を開催した。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- ・公立病院経営強化プランに反映することとしている地域医療構想については、地域医療構想推進調整会議が開催されていない状況で策定の目途が立っていない。県や横手保健所などと連携しながら情報収集に努めていく。
- ・物品の共同購入については、A重油を共同で購入しているが、他の医療材料などは実施できていない。共同での購入が可能な物品がないか検討を進めていく。
- ・両病院での人事交流については、新型コロナ対応などから具体的な検討に至っていないが、可能な職種がないかどうか院長会議等で検討を続けていく。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- ・両病院とも年末から年始にかけて新型コロナウイルス感染症の院内クラスターが発生し、一部の診療を制限、新規入院の休止など経営面でも大きな影響が出てしまった。国の方針で、5月8日から感染症分類が強制力のある2類から5類に移行することになるが、非常に感染力の強いウイルスであることに何ら変わりはない。これまでの感染対策を基本としながら、両病院で地域医療に貢献していきたいと考えている。
- ・地域医療構想については、地域医療構想推進調整会議が年度内に開催予定である。公立病院経営強化プランの合同勉強会を3回開催しており、次年度に計画策定予定となっている。コンサルタントとの業務委託契約を新年度締結し、両病院で意見調整しながら早期の策定を目指していく。
- ・物品の共同購入については、A重油を共同で購入しているが、他の医療材料などは実施できていない。共同購入できる物品について診療材料以外にもないか可能性を探っていく。
- ・病院間人事交流については、新型コロナ対応などから進展がなかった。可能な職種がないか、また、新規採用について病院事業として採用することについても含めて院長会議等で検討を続けていきたい。